

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす姿も像
・仲間とともに学びに向かえる子(確かな学び) ・自分のよさを知り、人とつながり協働する子(豊かな心) ・ゆめの実現に向かって粘り強く取り組み、活力ある生活を送れる子(健やかな体)

令和8年度 重点目標	(1)ICTの活用と、「学びのコンパス」を取り入れた授業実践 (2)家庭学習習慣の形成 (3)読解力の向上
1. 「総合的な学力」の育成	(1)人権教育の推進 (2)道徳教育の推進
2. 豊かな心の育成	(1)自ら考えて正しい行動ができる生徒の育成 (2)生徒理解の徹底と信頼関係の構築 (3)不登校の効果的な支援
3. 信頼関係を基盤にした生徒指導	(1)障害の状況に応じた指導の充実 (2)特別支援委員会の機能の充実 (3)個に応じた特別支援教育の推進 (4)通級指導教室との連携
4. 特別支援教育の推進	(1)授業研修 (2)家庭生活習慣の改善
5. 小中一貫連携の取組	
6. 信頼される教員の育成	

<p>確かな学びの現状(チャレンジテストの分析より)</p> <p>【国語】○特に記述式の解答については、無回答率が低く得点率も高かったことから、書くことへの抵抗感が低く、力もついている生徒が多いと考えられる。</p> <p>○「古文」分野の正答率が府平均より高かった。</p> <p>○昨年度の課題であった情報の扱い方についての能力が上がり、府平均を超えた。</p> <p>○「読むこと」について、昨年度と同じく1点低く改善の必要がある。</p> <p>【英語】○問題の領域ごとで見ると、「読むこと」に関する領域の問題では、府平均と近いポイントとなっており、長文読解に苦手意識は低いと考えられるので、基礎知識をよりつけることで、さらに向上できると考える。</p>	<p>豊かな心・健やかな体の現状(全国学力・学習状況調査、チャレンジテストのアンケート結果より)</p> <p>「学校などで、他の人と協力し合うことができる。」の問いに対して、生徒が「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答している割合が94%であった。このことから、日常の各教科でのグループ学習や班活動が成果として表れていると感じている。</p> <p>「自分には良いところがあると思いますか」の質問では「当てはまる」が全国平均を9ポイント上回った。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目に関しては約半数の生徒が「当てはまる」に回答している。一方、「読書は好きですか」の項目では全国平均よりも約10ポイント低い結果であった。</p> <p>○家庭で道徳の内容について話していますかのアンケートの肯定回答が低かった。</p>
--	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～〇月)	達成状況(年度末)	
							自己評価	学校関係者評価
確かな学び	総合的な学力の育成	ICTの活用と、「学びのコンパス」を取り入れた授業実践	●校内研修や研究授業を基に、学校内での「学びのコンパス」の考え方を広める	昨年度と同様以上であればA、3%以内の下降であればB、それ以上に下降した場合はC	年度末			
		家庭学習習慣の形成	★自主学習ノートを活用した家庭学習の推進	昨年度と同様以上であればA、3%以内の下降であればB、それ以上に下降した場合はC	年度末			
		読解力の向上	読書や授業を通しての読解力の向上(書く力の向上)	分析の結果で向上が見られればA、昨年と同程度であればB、昨年より低下であればC	年度末			
豊かな心・健やかな体	人権教育	人権教育の推進	●「ほんものとの出会い」を通じた人権学習による心の育成 ●「参加」「体験」など、子どもの発達段階に応じた指導	[生徒の成長記録の内容] 学校アンケートは昨年度より上がっているA、同程度B、大きく下がっているC	年度末			
	道徳教育	道徳教育の推進	「考え、議論する道徳」に向けた指導・評価の工夫・改善に取り組む。	[生徒の成長記録の内容] アンケートは昨年度より上がっているA 同程度B 大きく下がっているC	年度末			
信頼関係を基盤にした生徒指導	積極的な生徒指導	自ら考えて正しい行動ができる生徒の育成	指導の場面では、生徒に考えさせる、生徒リーダーの育成。	昨年度と比べ3%以上向上すればA、変動が上下3%以内B、3%以上下がればC	年度末			
		生徒理解の徹底と信頼関係の構築	行事の取り組みの中で信頼関係の構築を目指す。生徒の気持ちを丁寧に聞き取り、生徒個々の立場を十分配慮した指導を徹底する。	学校アンケートの2項目で70%以上であればA、そうでなければB、	年度末			
		不登校の効果的な支援	心の教室・ICTを活用し、長欠生と繋がり、登校日数を増やす。教育支援教室やフリースクール等を活用する。	不登校生徒数が前年度を下回っていればA、そうでなければB	年度末			
	支援教育	個に応じた特別支援教育の推進	・職員会議・学年会議で生徒の様子や配慮事項、学年で気になる生徒の困り感や実態を踏まえた情報共有をする機会をもち、必要に応じたその後の支援方法について検討する。 ・個々の実態に応じて色々な先生方と関わったり社会へ出ていく練習など自立活動中心の授業をしていく。	アンケートが昨年度より上がっていればA 変わらない・下がっていればB	年度末			
小中一貫		グランドデザインをふまえた段差解消の取組み	★校区内児童生徒の「総合的な学力」の向上をめざした連携強化を行う。★小中相互の授業参観を行い、授業力向上につなげる。	昨年度と比べ3%以上向上すればA、変動が上下3%以内B、3%以上下がればC	年度末			

校長より(年度末)	学校関係者評価者から(年度末)
-----------	-----------------